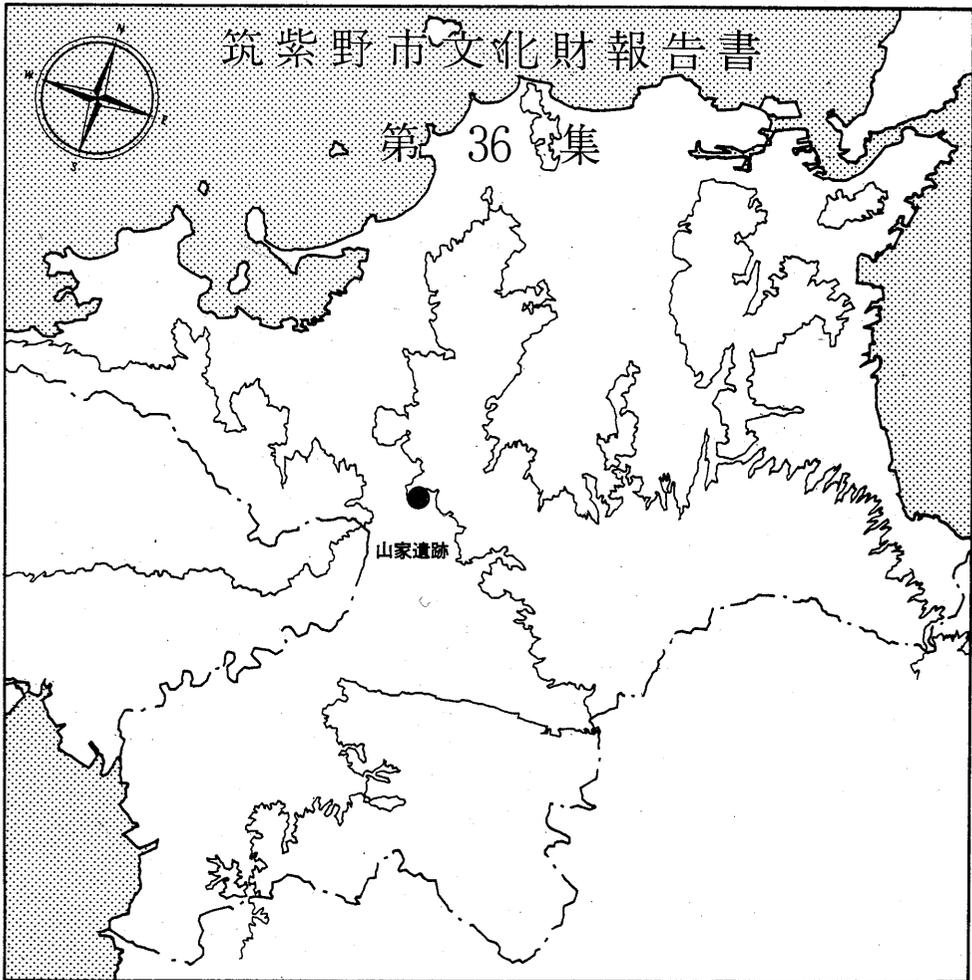


山家遺跡

筑紫野市大字山家所在遺跡の調査



1993

筑紫野市教育委員会

序

当市における宅地開発進行は加速度を増し、市内周辺部もその波が押しよせはじめました。

本書は、筑紫野市大字山家に所在する遺跡の発掘調査の概報であります。

今回の調査において多種多量の遺物が出土したと聞いておりますが、本書ではこれらの成果について十分な報告ができませんでした。機会があれば成果のすべてを報告し、学術文化の向上に少しでも役立てたいと考えております。

調査に際してかなりの重労働と暑さのなか、作業に従事して下さった方々と御協力下さった関係各位に対し心から御礼申し上げます。

平成5年3月31日

筑紫野市教育委員会

教育長 永 淵 正 敏

例 言

1. 本書は宅地造成事業に伴い、筑紫野市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の概報である。
2. 調査は、たけした住宅株式会社の委託をうけて筑紫野市教育委員会が実施した。
3. 現地での実測は渡邊和子のほか、(株)アジア航測（現場代理人：佐伯正一）に写真測量を委託した。
4. 遺構の写真は渡邊のほか、(有)空中写真企画に委託し、遺物写真についてはフォトハウス岡に委託し撮影を行なった。
5. 出土遺物の実測・製図は渡邊が行なった。
6. 挿図で使用した方位はすべて磁北を示す。
7. 本書の編集は渡邊が担当した。

本文目次

	頁		頁
I. 調査に至る経過	1	II. 調査の概要	1・3

挿 図 目 次

	頁		頁
Fig. 1 調査区周辺地形図(S1/2500)	2	Fig. 6 住居跡出土石器・土製品実測図(S1/2)	6
Fig. 2 7号貯蔵穴・4号土壌実測図(S1/40)	4	Fig. 7 3・2号甕棺墓・1号木棺墓実測図	
Fig. 3 6・2号土壌実測図(S1/30)	4	(S1/30)	7
Fig. 4 44・19号住居跡実測図(S1/60)	5	Fig. 8 その他の遺構出土石器・土製品実測図	
Fig. 5 土壌・貯蔵穴出土石器・土製品実測図		(S2/3)	8
(S1/2)	6	附図遺構配置図(S1/200)	

I. 調査に至る経過

平成2年6月11日付で株式会社たけした住宅より筑紫野市大字山家5121～1、5122～1番地の2434㎡に対する開発事業の協議があり、あい前後して同年6月13日付で本市都市計画課から都市計画法第32条に基づく本申請が提出された。前後して6月15日付で申請者(株)たけした住宅より文化財の有無についての照会があり、6月23日に当教育委員会では試掘調査を実施した。この結果、当該地は弥生時代から奈良時代にかけての埋蔵文化財包蔵地である事を確認、申請者から提出された文化財保護法57条の2第1項に基づく届出を受理し、ただちに進達した。7月24日には申請者に対し事前に発掘調査を実施する旨の通知が県の教育委員会よりあり、これを申請者に伝達するとともに発掘調査についての協議を始め、平成3年1月13日に調査に伴う最終協議を行なった。この結果、当市教育委員会が発掘調査を受託することとし、平成4年3月31日付で埋蔵文化財発掘調査の委託契約書を締結し、同年4月15日からバックホーを搬入し、調査を開始した。

なお、調査組織は下記のとおりである。

総括	筑紫野市教育委員会		教育長	永渕正敏
庶務	筑紫野市教育委員会	社会教育課	課長	竹田征治
		”	文化財担当	係長 山野洋一
			”	技師 渡邊和子
試掘調査			”	主事 奥村俊久
調査	筑紫野市教育委員会	社会教育課	文化財担当	技師 渡邊和子

II. 調査の概要

山家遺跡は、筑紫野市大字山家に所在する。筑紫野市山家は長崎街道の筑前六宿の宿場町として近世繁栄していた。また朝倉から日田へ通じる朝倉街道（豊後街道）もこの山家宿の南側、大又を通る。このようにこの付近は交通の要衝であったことが窺われる。

今回の調査地点は、山家川の西側宮地岳（337m）の南東山麓に位置する。山家川は筑紫平野の北部を潤す宝満川の支流で、この宝満川やその支流ぞいには数多くの遺跡の存在が知られている。また砥上岳山麓や山家川沿いの東側の平野部にも多くの遺跡が存在することが、国道200号バイパス建設に伴う調査や圃場整備に伴う発掘調査で明らかになっている。宮地岳中腹には装飾古墳で知られる殿様塚古墳があるが、この宮地岳南東山麓の埋蔵文化財調査は、これまで皆無であった。遺跡は現在の山家集落の一部を含んで、かなり広がるものと考えられる。

調査区は、諸々の事情により横長く変則的に行なった。試掘時から予想されていたように全域に遺構は重複し、しかも地山がほとんどなく遺構検出に苦労した。

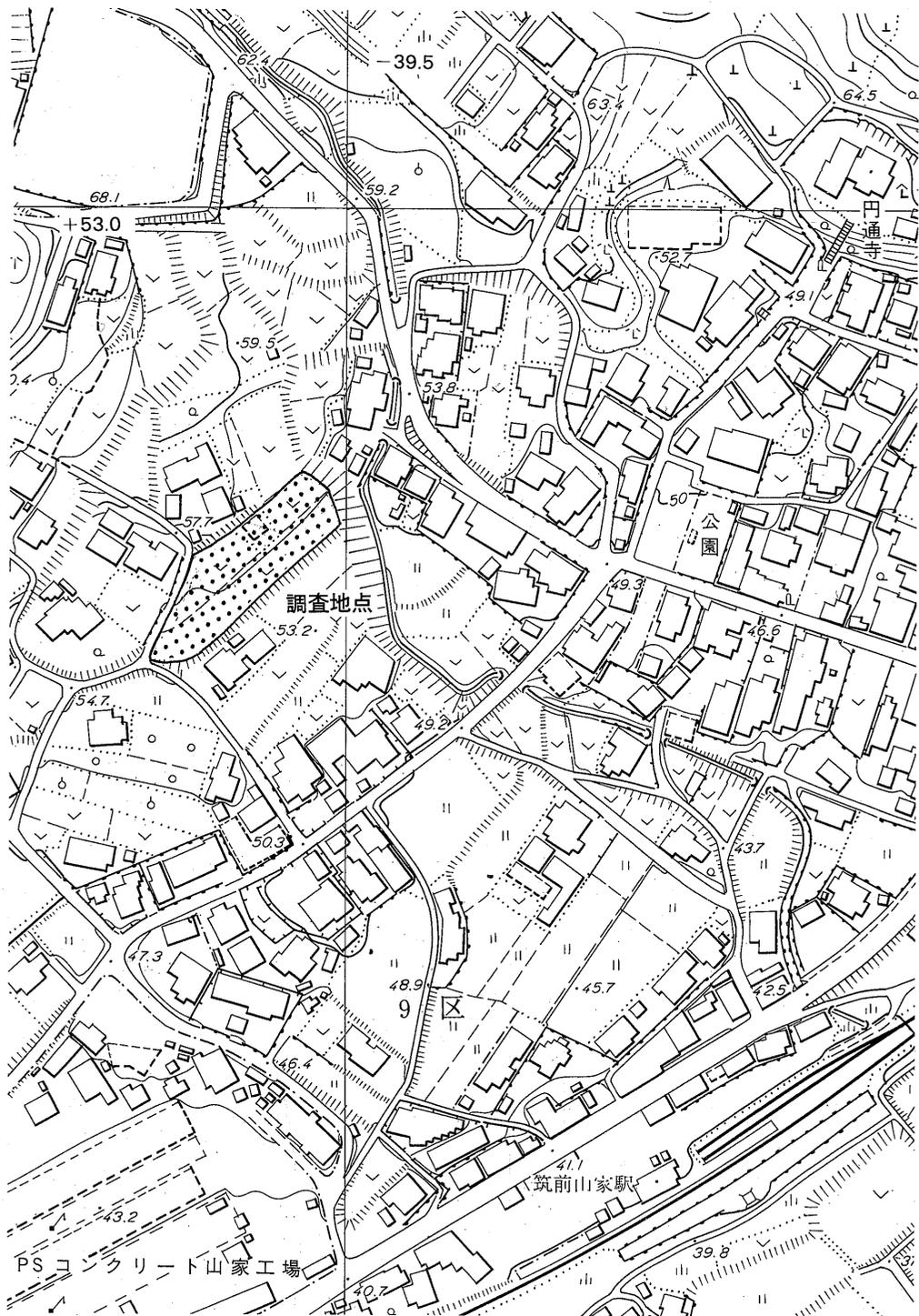


Fig. 1 調査区周辺地形図 (S1/2500)

試掘時のトレンチで土層観察を行い、遺構面が時期をおいて二面あることが分ったが、調査期間・調査費用の制限などで上・下二面にわたっての調査は断念せざるをえなかった。

検出した遺構は、竪穴住居跡54軒、土壇77基、溝7条、貯蔵穴13基、甕棺墓8基、土壇墓3基、木棺墓1基、性格不明遺構5基、ピット150である。

竪穴住居跡は、隣接地に続くものが多く完掘できたものは15軒である。出土した遺物から、主体になるのは弥生時代中期初頭から中頃のものと考えられる。

土壇は77基検出されたが、時期的には弥生時代中期初頭から中頃のもの住居跡同様に主体をなすが、一部には8世紀代の遺物を含んだものも検出できた。この中には、「木」と書かれた墨書土器が含まれる。この時代の遺跡の広がりには現段階では明確にできないが、山家川東側の低台地上にある同時期の遺跡との関連も今後の検討課題であろう。

甕棺墓・木棺墓の墓地構成についても全容は伺い知れないが、100m程離れた地区公民館の駐車場整備の時に出土した甕棺墓や考古学雑誌（昭和10年代）で紹介されたものを含めて検討する必要があると思われる。

1. 遺構 (Fig. 2・3・4・7, PL. 2・3・4・5)

Fig. 2-1は貯蔵穴。深さ1.05m、底面はやや角ばる部分もあるがほぼ円形を呈す。径1.1m前後を測り、壁面は胴張りである。Fig. 2-2はやや長方形気味のプランをなす土壇である。0.5×1.5mで深さ0.4mを測る。床面は平坦。Fig. 3-3は略楕円形を呈し、床面はほぼ平坦。北側から甕が一個体つぶれた状況で出土した。4は2号土壇でやや不整形な楕円形プランを呈す。底面は東から中心部にむかって段がつく。段は傾斜して深さ0.8mの床面に至る。Fig. 4-5は方形竪穴住居跡で支柱穴は4本。北壁の北東寄りにカマドを附設する。6は径2.8~3mを測りやや楕円形気味のプランを呈す。壁高は最大8cmしか遺存しない。Fig. 7-7は3号甕棺墓で覆口式。上甕は壺の上半部を打ち欠いたものを使用し、埋置を安定させるために底部付近に2個の石を据えている。8は鉢と壺を使用した覆口式の小型の甕棺墓である。

2. 遺物 (Fig. 5-1~9・6-10~18・8-19~29)

1~9は土壇・貯蔵穴、10~18は住居跡、19~29はPit、溝より出土および表採の石器・土製品である。1・2・15は赤紫粘板岩製、10は砂質片岩製の石庖丁である。穿孔はすべて両面から、15は再度研ぎ直したものであろう。13は赤紫粘板岩製の石戈の基部である。3はパティナの進んだ縦長剥片を素材にしたカーブスクレイパーである。14は剥片鏃、29は台形様石器、いずれも黒曜石製。21・22はサヌカイト製。20は蛇紋岩製の小型の磨製石斧である。

概要で述べたように多くの遺構と多くの遺物が出土したため、整理の進捗が遅れ、概報としながら石器中心の変則的な報告書となってしまいました。この点はお詫びしたいと思います。今後整理を進め、改めて詳しく報告したいと考えています。

註1 冷水バイパス関係埋蔵文化財調査報告 1982 福岡県教育委員会

註2 ハヶ坪遺跡 大島遺跡 中島遺跡 人形原遺跡 1990 筑紫野市教育委員会

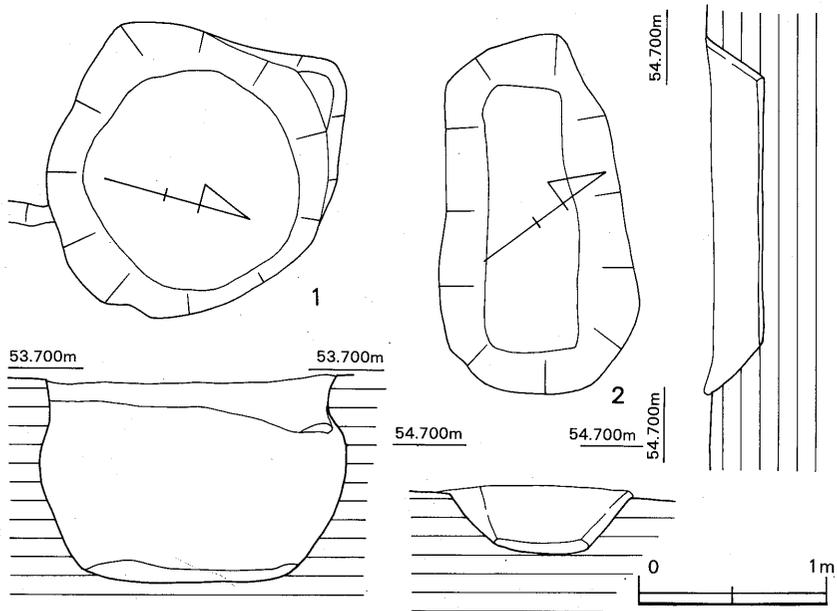


Fig. 2 7号貯蔵穴・4号土坑実測図 (S1/40)

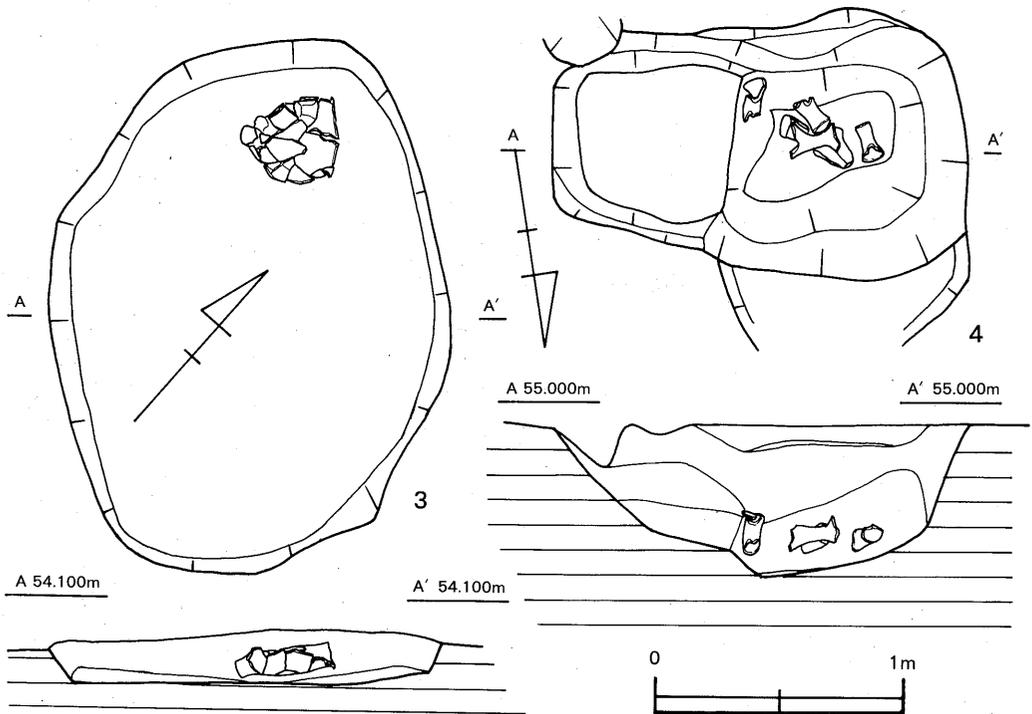


Fig. 3 6・2号土坑実測図 (S1/30)

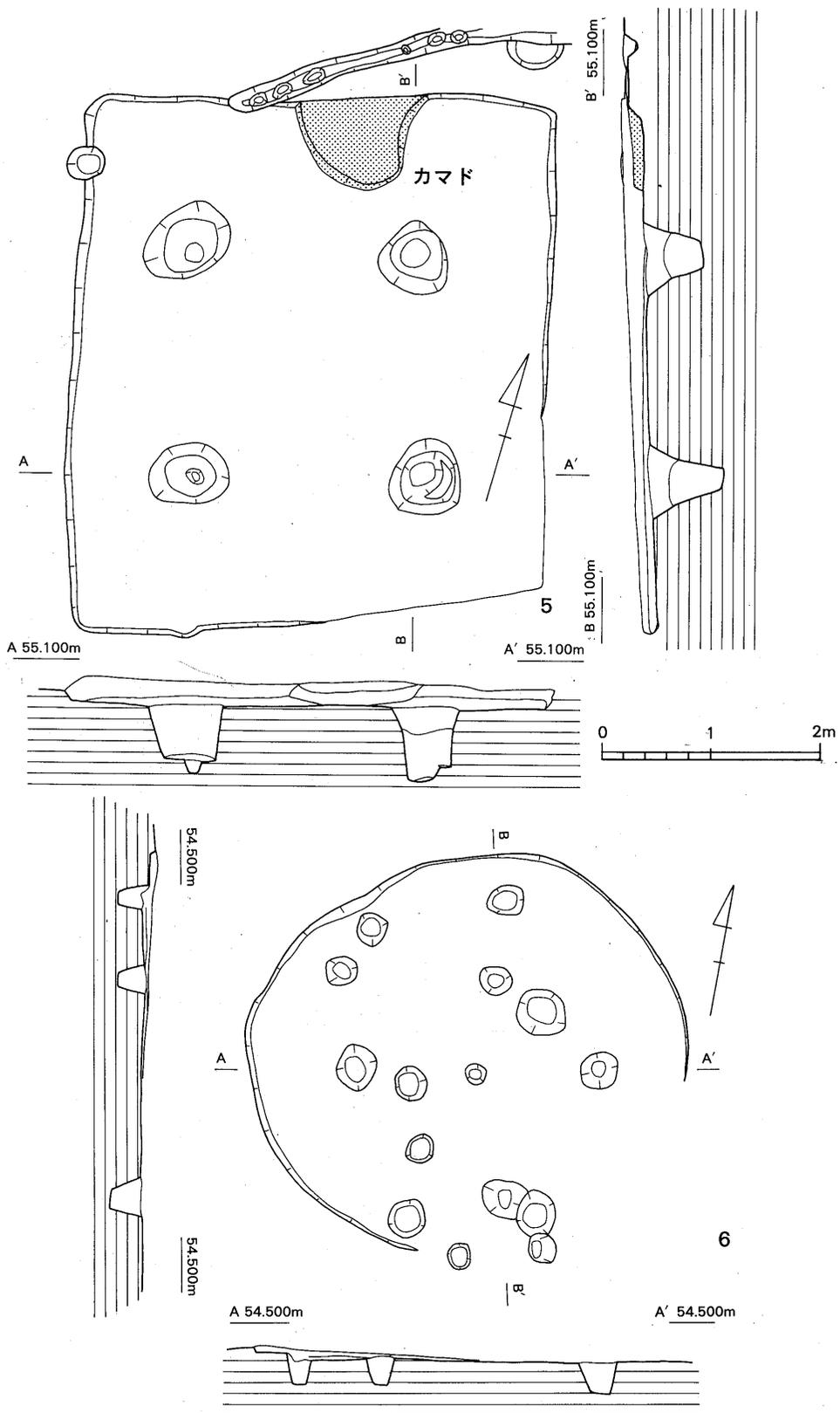


Fig. 4 44・19号住居跡実測図 (S1/60)

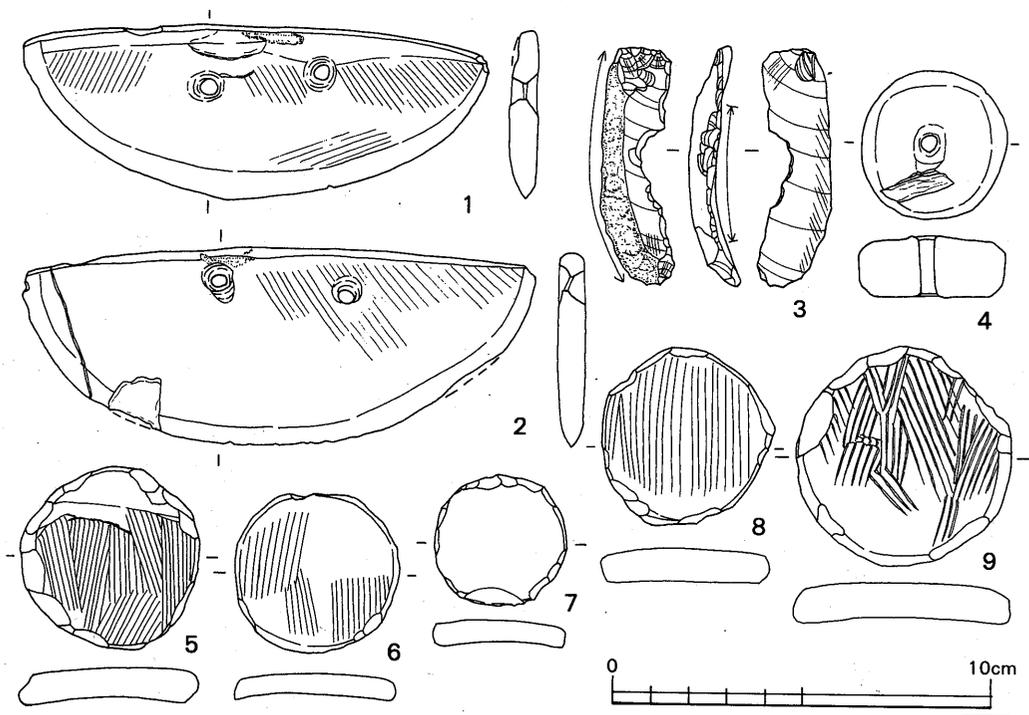


Fig. 5 土墳・貯蔵穴出土石器・土製品実測図 (S1/2)

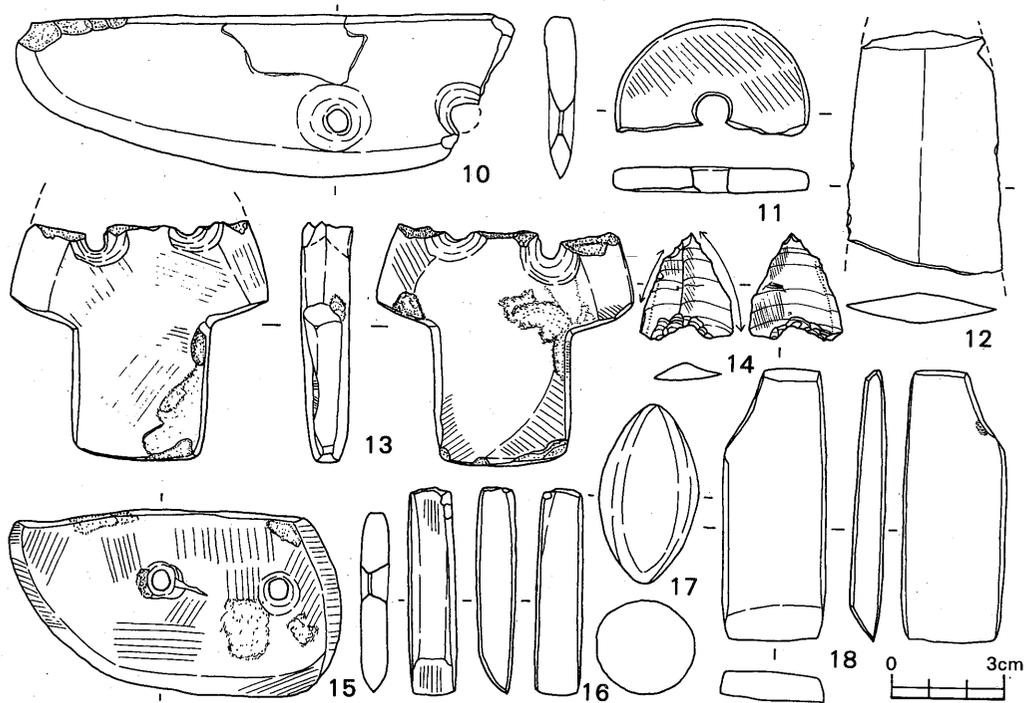


Fig. 6 住居跡出土石器・土製品実測図 (S1/2)

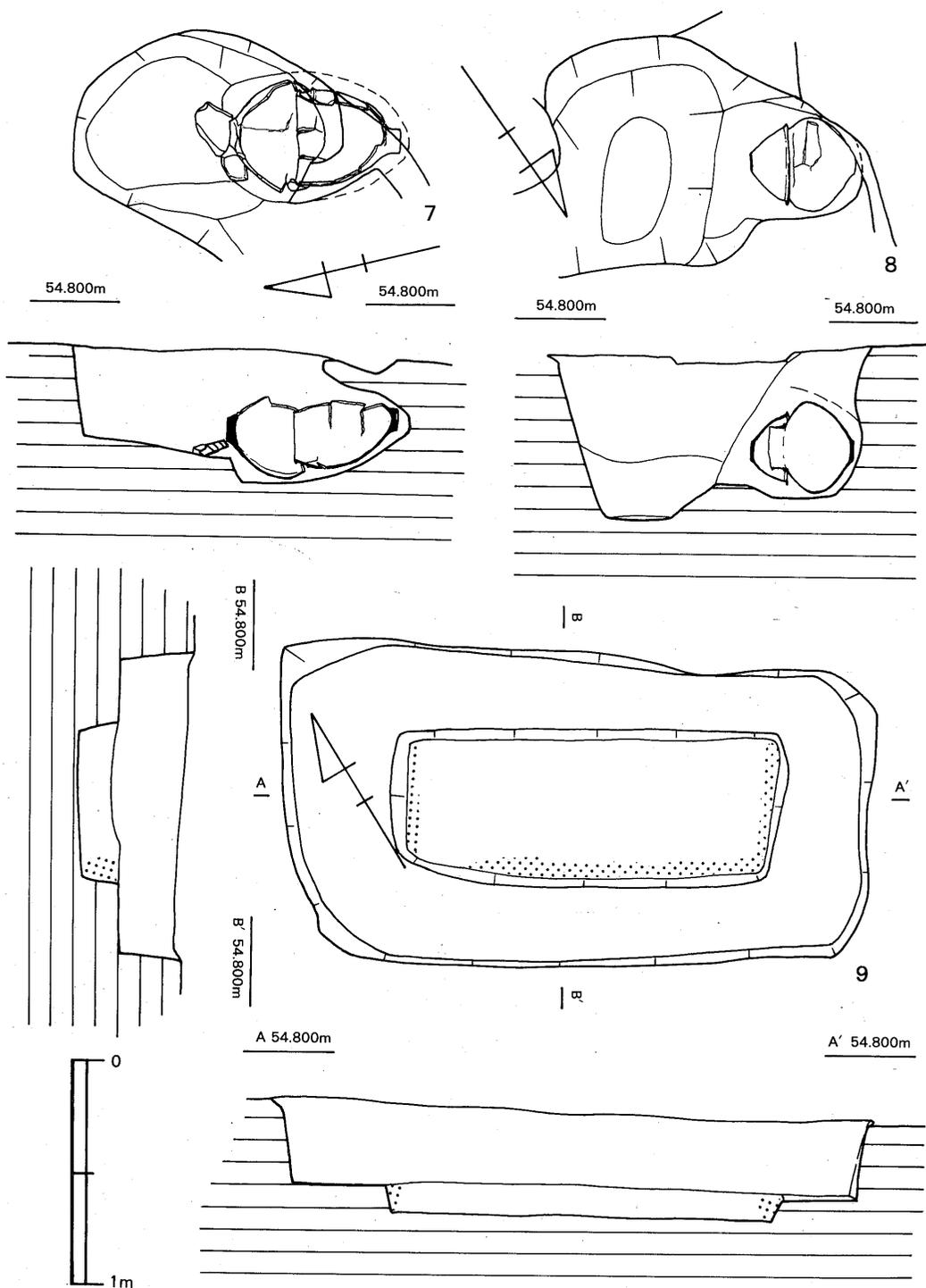


Fig. 7 3·2号甕棺墓·1号木棺墓实测图 (S1/30)

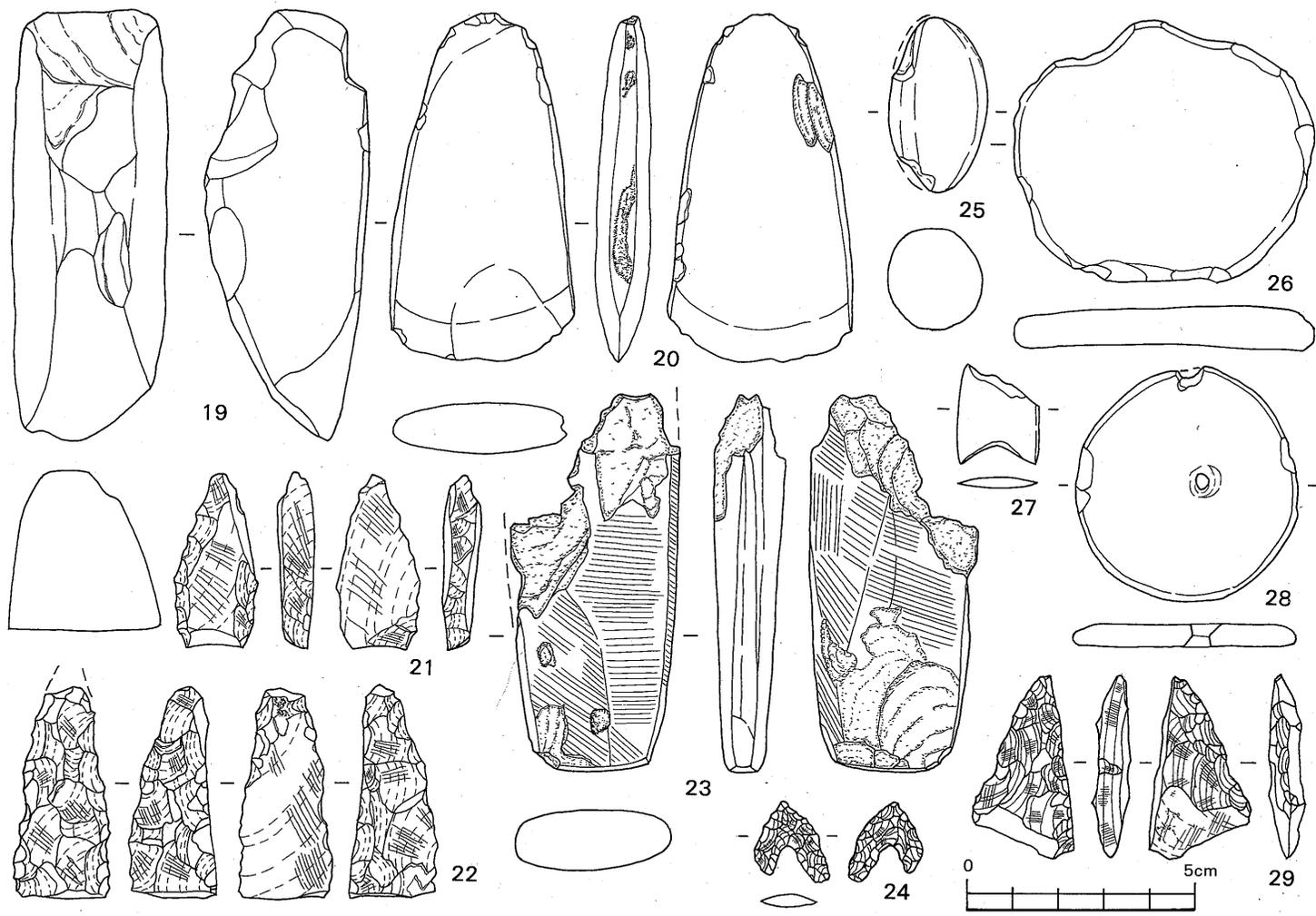
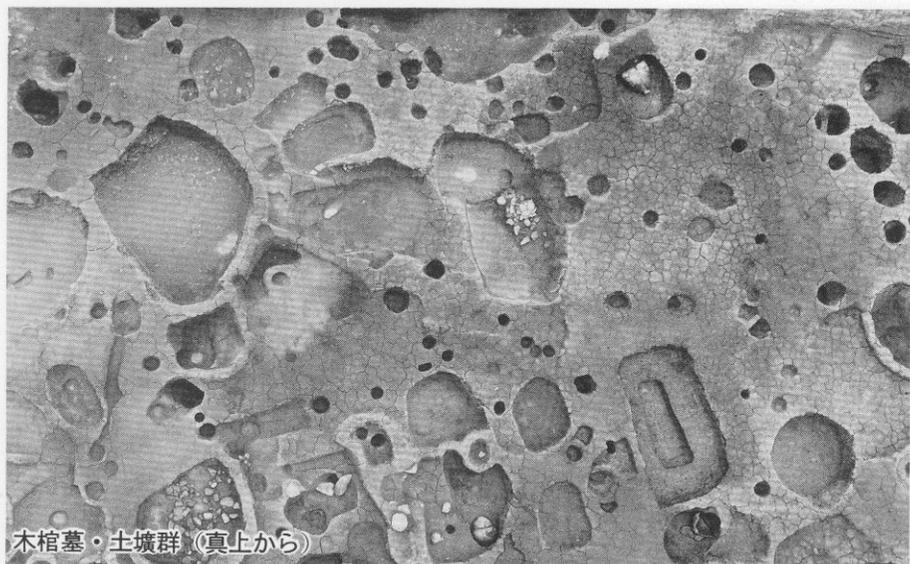
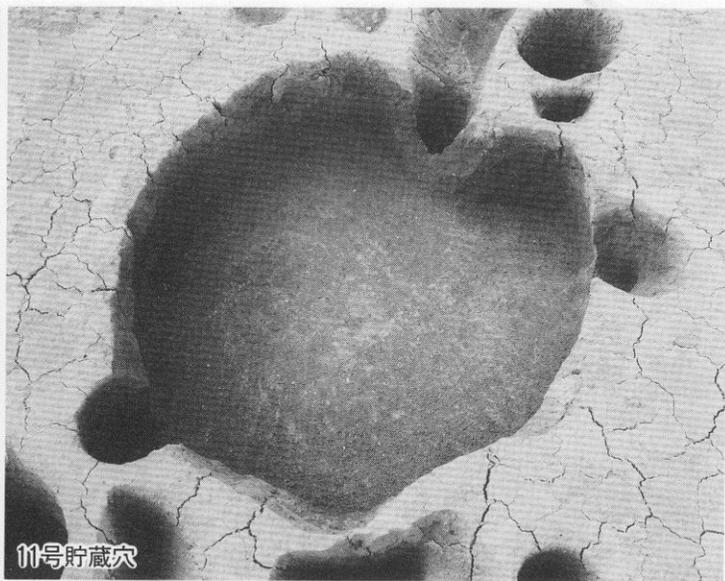


Fig. 8 その他の遺構出土石器・土製品実測図 (S2/3)

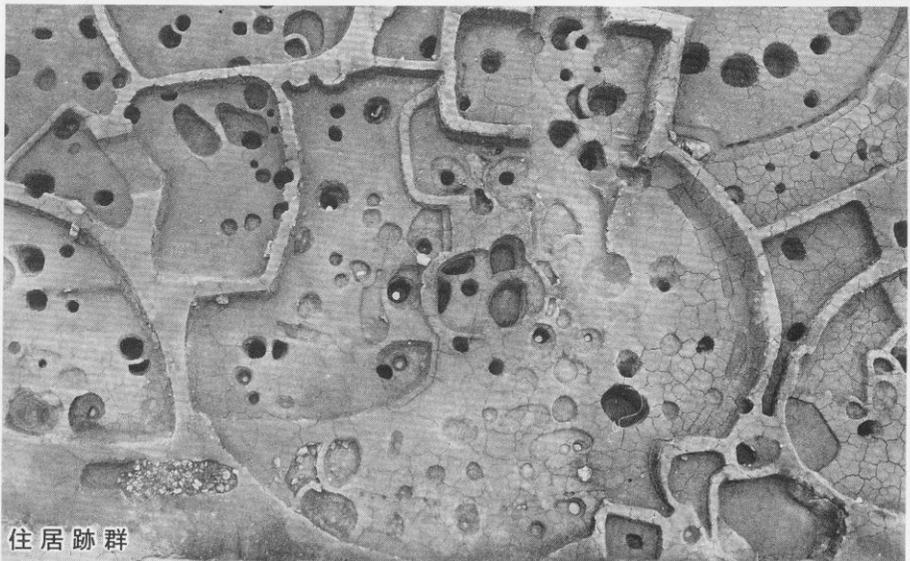




木棺墓・土城群 (真上から)



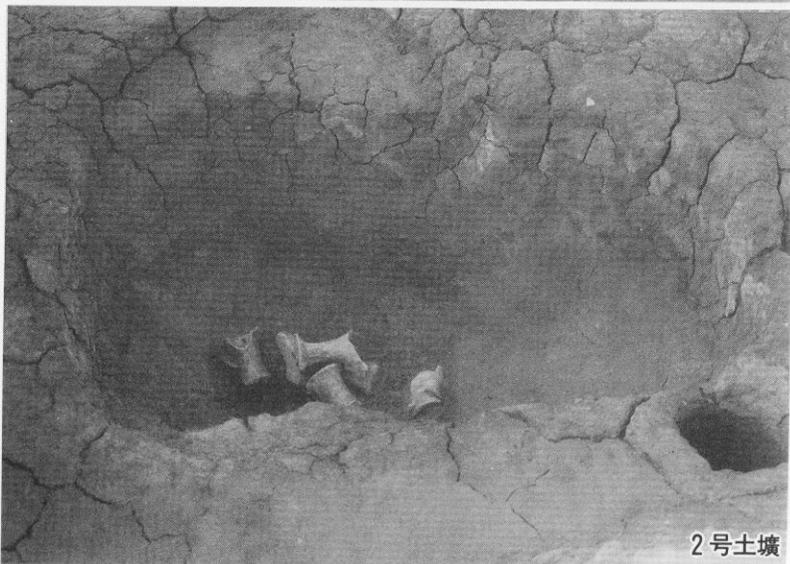
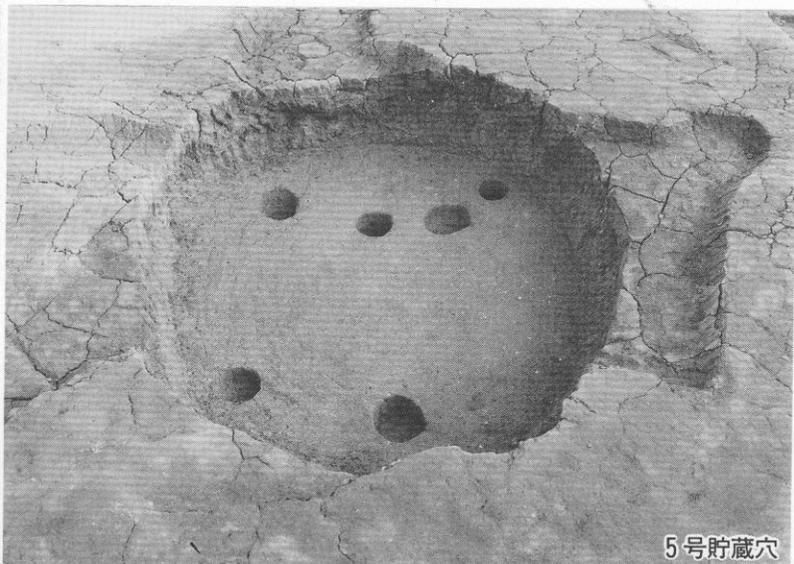
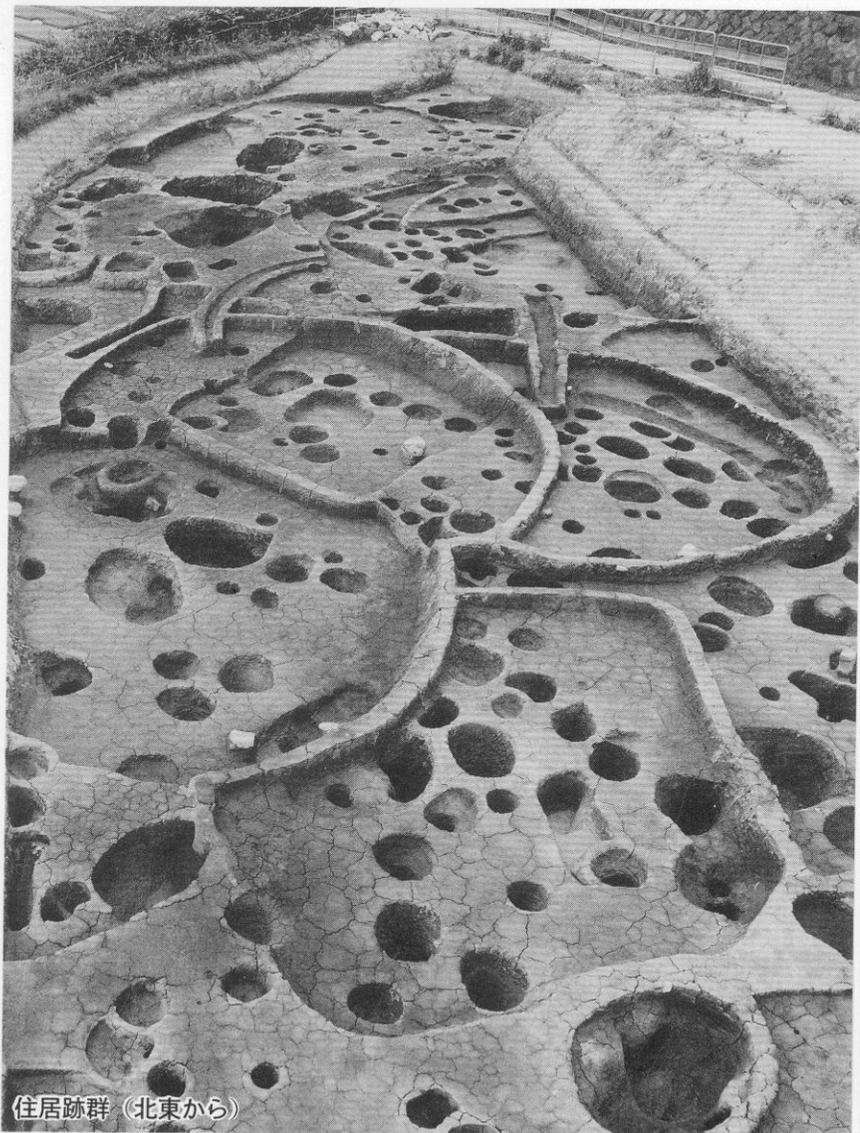
11号貯蔵穴

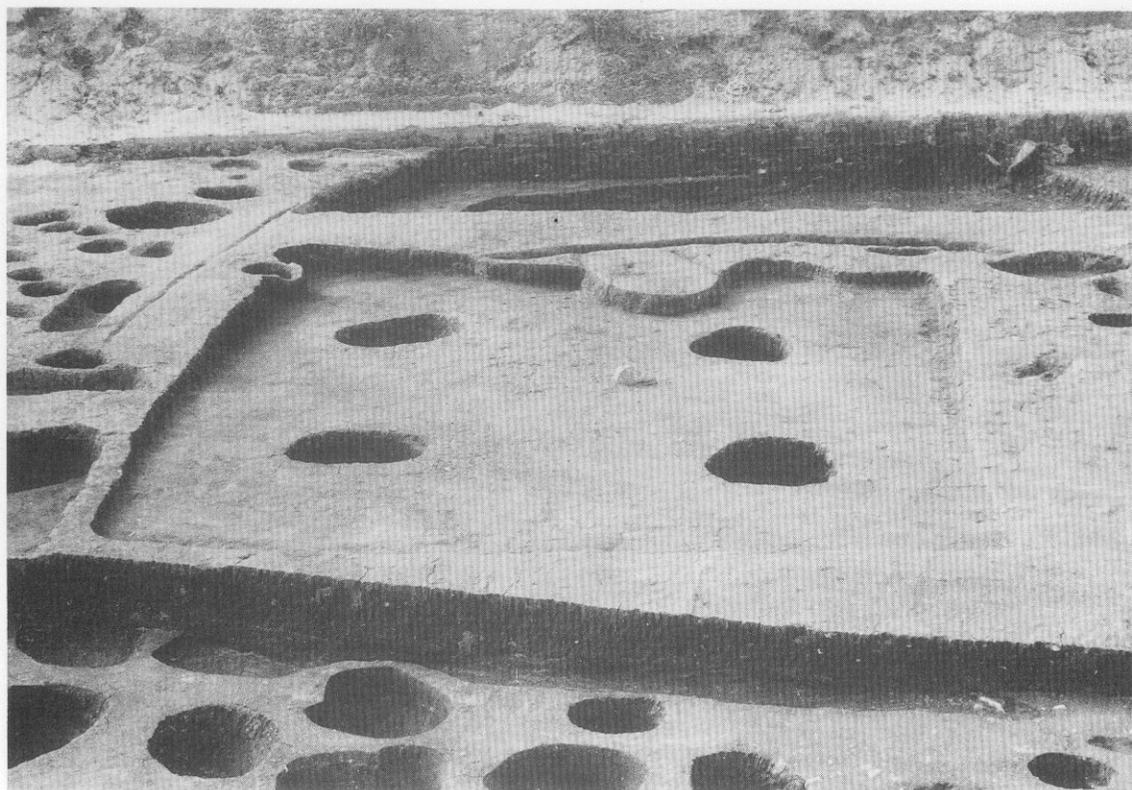


住居跡群

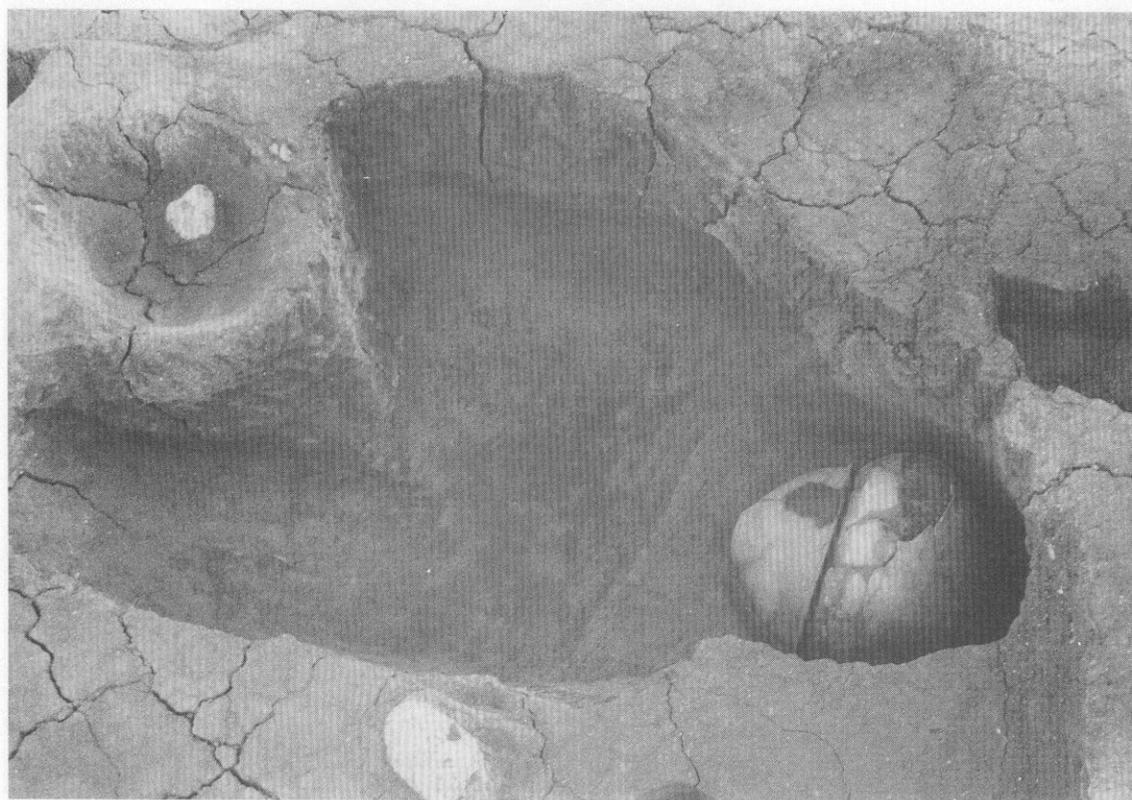


6号土城





PL.4 44号住居跡



PL.5 2号甕棺墓

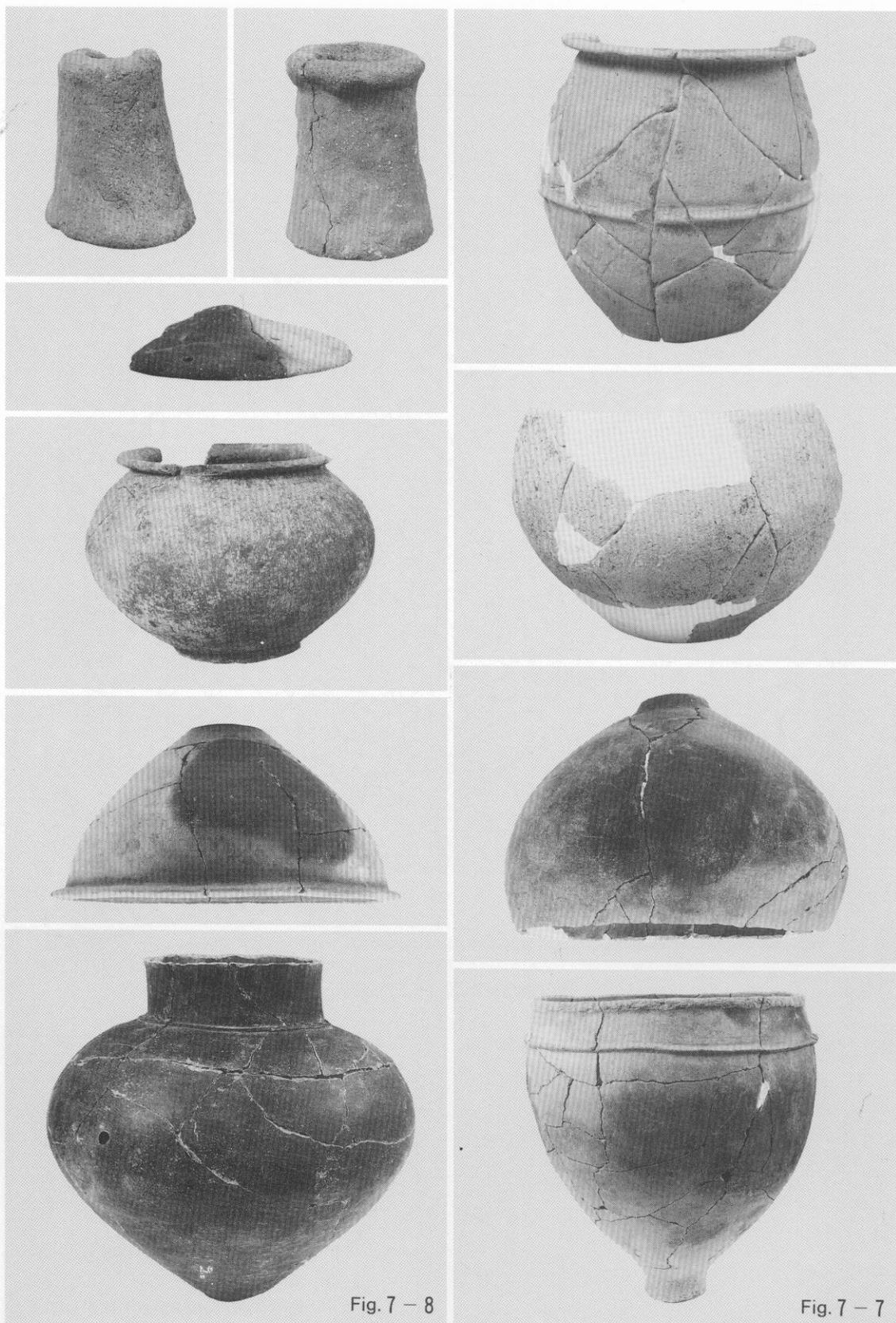
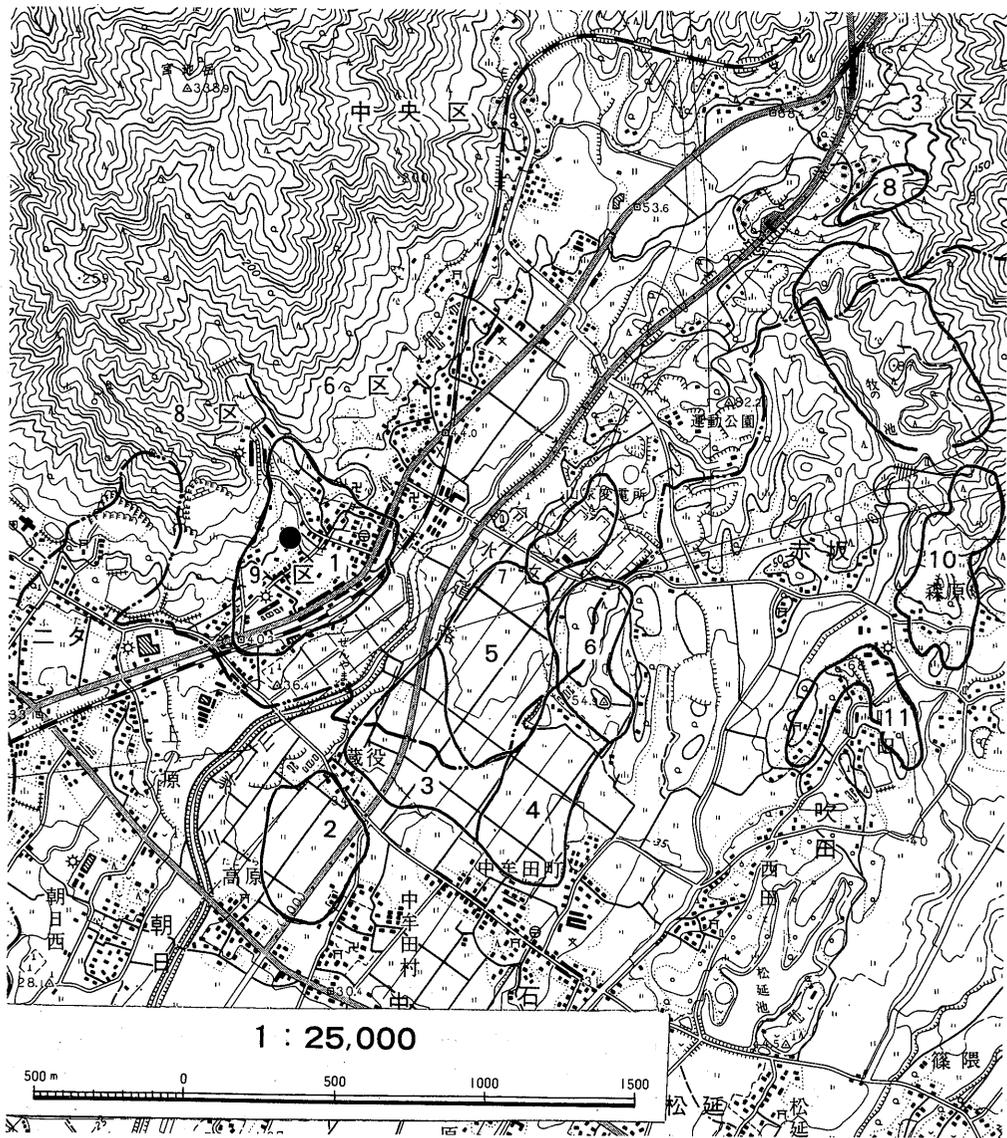


Fig. 7 - 8

Fig. 7 - 7

PL. 6 出土土器



周辺遺跡分布図 (S1/25000)

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 山家遺跡 | 7. 山家人形原遺跡 |
| 2. 坂井田・宮ノ上遺跡 | 8. 池田古墳群 |
| 3. 八ヶ坪遺跡 | 9. 牧の谷古墳群 |
| 4. 茶屋原遺跡 | 10. 森原遺跡 |
| 5. 大島遺跡 | 11. 吹田古墳群 |
| 6. 中島遺跡 | |

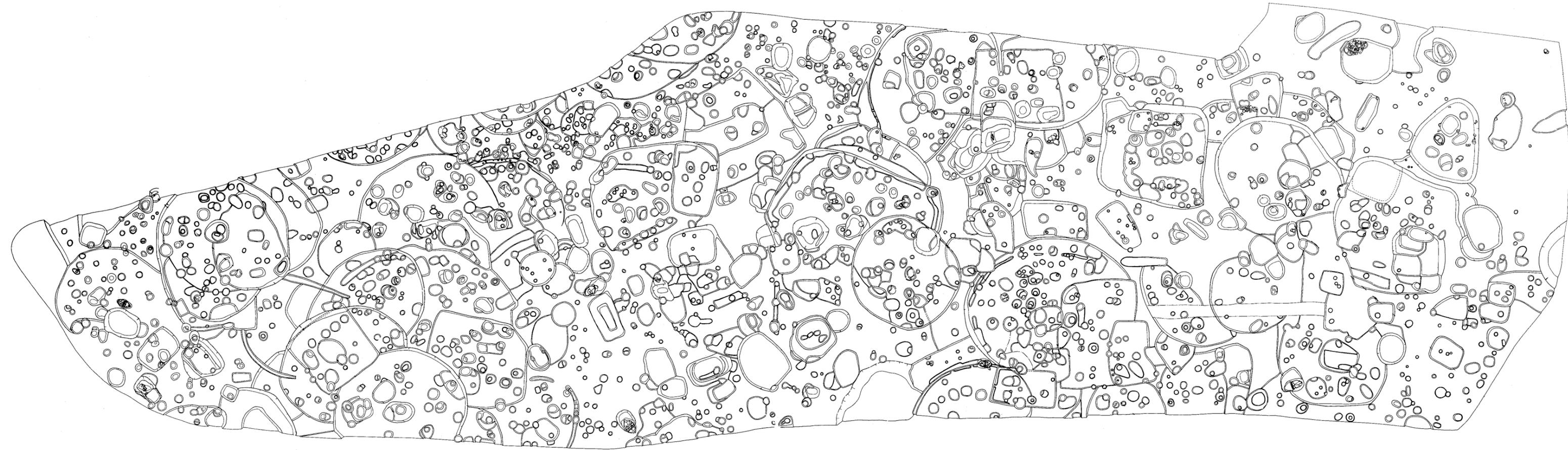
山家遺跡

筑紫野市大字山家所在遺跡の調査

筑紫野市文化財報告書

第36集

発行 筑紫野市教育委員会
 福岡県筑紫野市大字二日市753-1
 印刷 株式会社 川島弘文社
 福岡市東区箱崎ふ頭六丁目6-41



山家遺跡遺構配置図 (S 1/200)